



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第二四七号）

しゅんぶん  
春分

三月二十日

## 社日碑

「暑さ寒さも彼岸まで」というように、昼と夜の時間がほぼ等しくなる春分の日、季節の変わり目として、また先祖を供養する彼岸として日本人に親しいものとなっています。この春分の日に近い戊の日に「社日」という日があります。なんでも「地神」に豊作を祈る祭りを行うといいますが、実感のないままにいました。

すると先日、津市の郷土史家に「社日碑」なるものを教えてもらいました。津市美杉町の仲山神社で、江戸時代の「天明八年」の年号が入った社日碑を見つけ、全国でも七番目に古いことがわかったそうです。

社日碑は、五柱の神名を刻んだ石柱で、天変地異が起った江戸中期に、農耕にちなむ「地神」の新たな祀り方として京都の大江匠彌が提唱したときられています。天照皇太神宮、大己貴命、少彦名命、埴安姫命、倉稻魂命の五柱の神の名が六角柱のそれぞれの面に刻まれているのが特徴です。社日の信仰を伝える石碑なのです。社日という雑節がようやく身近に感じられました。

伊勢にも社日碑がないものか、調べてみると、昭和六十二年に市教育委員会が発行した『伊勢市の石造遺物』に記述はなく、また『三重県史』民俗編には、社日は「明和町や多気町ではこの日に土をなぶらない」と二行記されている程度でした。

ただ、郷土史家曰く、社日碑は三重ではあまり知られていないため、方角石と間違えている場合も多いとのこと。まだ、調べが進んでいないだけかもしれないません。今年の春の社日は三月二十二日。社日碑を探しにしてみました。

文 千種清美

